

近藤みゆき教授 追悼号



近藤みゆき教授 年譜及び業績一覽

〈年譜〉

昭和35年2月23日 大阪市に生まれる

昭和53年3月 日本女子大学附属高等学校卒業

昭和53年4月 日本女子大学文学部国文学科入学

昭和57年3月 日本女子大学文学部国文学科卒業

昭和58年4月 東京大学大学院人文科学研究所国語国文学専門課程修士課程入学

文学専門課程修士課程入学

昭和61年3月 同修士課程修了

昭和61年4月 同博士課程進学

昭和63年4月 同課程中途退学

千葉大学教養部専任講師

平成4年6月 千葉大学教養部助教

平成6年4月 千葉大学文学部・文学研究科助教(配)

置換)

平成13年4月 実践女子大学文学部・大学院文学研究

科助教

平成15年4月 実践女子大学文学部・大学院文学研究

平成16年4月

科教授

平成18年1月

令和元年12月16日 逝去(享年59歳)

〈学会および社会における活動〉

○中古文学会(平成15・16年・事務局、編集委員)

○和歌文学会(平成3～5年、平成7～9年・論集編集委員、

平成7～9年・事務局委員、平成9～10年・委員、平成

11年～22年常任委員、平成11年～14年・編集委員、平成

21年～22年・論集編集委員)

○和漢比較文学会

○言語処理学会

○情報処理学会(平成17・18年・C H研究会運営委員)

○ジェンダー史学会

○東京大学国語国文学会

○東京大学中世文学会

〈受賞〉

○平成13年6月 言語処理学会第7回大会優秀発表賞（近

藤泰弘と共同）

○平成18年9月 関根賞（第二次）第1回

〈単著〉

○『和泉式部日記 現代語訳付き』（ソフィア文庫） 角川書店（平成15年12月初版）

（平成19年3月再版…一部改訂）

（平成20年12月三版…一部改訂）

（平成22年5月四版…参考文献増補）

○『古代後期和歌文学の研究』平成17年2月 風間書房

○『王朝和歌研究の方法』平成27年4月 風間書院

〈共著〉

○『論集 和泉式部』昭和63年9月（和歌文学会編、笠間書院）（「和泉式部と漢詩文―同時代からの達成―」を執

筆）

○『歌ことばの歴史』平成10年5月（笠間書院）（「古今和歌六帖の歌語―データベース化によって見た歌語の位

相―」 pp. 35～53を担当。）

○『御堂関白記全注釈（寛弘二年）』平成11年7月（山中裕編、高科書店）（注釈を分担執筆（全188頁））

〈CD-ROM 単著〉

○『相模集データベース』平成10年3月（じんもんこん DATABASE vol.1 重点領域「人文科学とコンピュータ」総括班 研究代表者（総合研究大学院大学 及川昭文）発行）

〈研究論文〉

○「更級日記終末部私見」〈単〉昭和56年12月（『研究と資料』第6輯）

○「もう一つの百首歌―『流布本相模集』初事歌群を中心に―」〈単〉昭和57年12月（『平安文学研究』第68輯）

○「相模伝記考（一）結婚まで―母系慶滋氏との関連を軸に―」〈単〉昭和58年3月（『国文目白』22号）

○「相模伝記考―大江公資・藤原定頼との関係をめぐって―」〈単〉昭和58年8月（『和歌文学研究』47号）

○「源道済の和歌における漢詩文受容―句題詠法を軸に―」〈単〉昭和62年1月（『国語と国文学』64巻1号）

○「相模伝試論―中年期以後の軌跡―」〈単〉昭和63年4月

〔古典和歌論叢〕犬養廉編 明治書院)

○「平安中期河原院文化圏に関する一考察―曾祢好忠・恵慶・源道済の漢詩文受容を中心に―」(単) 平成2年3月(『千葉大学教養部研究報告』A-22)

○「一条朝期名所絵屏風の一様相―源道済集所載「寛弘五年七月或所屏風」と藤原道兼の栗田山莊障子絵詩歌について―」(単) 平成3年12月(『千葉大学教養部研究報告』A-24)

○「見渡せば」と「眺望」詩―拾遺集時代の漢詩文受容に關する一問題として―」(単) 平成4年9月(和漢比較文学叢書第11巻『古今集と漢文学』和漢比較文学会編汲古書院)

○「撰関期和歌と白居易」(単) 平成5年10月(白居易研究講座第3巻『白居易研究講座 日本における受容(韻文篇)』勉誠社)

○「藤原定家の所持した『相模集』―勅撰集撰集資料として見た現流布本系『相模集』の伝来とその性格―」(単) 平成5年12月(『千葉大学教養部研究報告』A-26)

○「王朝表現史管見―源経信の一首「月かけの澄みわたるかな天のはら雲ふき払ふ夜半の嵐に」とその周辺」(単) 平成6年7月『論集中世の文学 韻文編』(久保田淳編 明治書院)

○「流布本『相模集』定頼・公資歌群をめぐる一試論―その物語手法を中心として―」(単) 平成6年5月 和歌文学論集6『平安後期の和歌』(風間書房)

○「レトリックの検討」和泉式部を例として・象徴の手法―手習の世界と和泉式部統集日次詠歌群―」(単) 平成6年11月(『国文学』(特集・和歌をどう論じるか)学燈社)

○「私家集とは何か」(単) 平成7年1月(『時代別 日本文学史事典 中古編』有精堂)

○「和歌の展開―一〇世紀」(単) 平成8年7月(岩波講座 日本文学史第2巻『九・一〇世紀の文学』岩波書店)

○「逢恋・不逢恋から思へ―題詠恋歌の女たち―」(単) 平成8年10月(『国文学』(特集・恋歌―古典世界の)学燈社)

○「隠者文学としての和歌の系譜」(単) 平成9年8月(『王朝和歌を学ぶ人のために』世界思想社)

○「うた―書く、集める、合わせる、えがく」(単) 平成12年1月(週刊朝日百科『世界の文学』23号「古今集 梁塵秘抄」朝日新聞社)

○「和歌とジェンダー」(単) 平成12年4月(『国文学』(特集・和歌の脱領域)学燈社)

○「グラム統計処理を用いた文字列分析による日本古典文学の研究―古今和歌集のことばの型と性差―」(単)

平成12年3月(千葉大学『人文研究』第29号)

○「相模―数奇な恋愛遍歴」〈単〉平成12年8月(『解釈と鑑賞』〈特集・古代文学に見る女性たち〉至文堂)

○「平安時代古典語古典文学研究のためのN-gramを用いた解析手法」(共・近藤泰弘)平成13年3月(言語処理学会 第7回年次大会『発表論文集』)

○「n-gram統計による語形の抽出と複合語―平安時代語の分析から―」〈単〉平成13年8月(『日本語学』vol.20 2001年8月号)

○「N-gramの手法による言語テキストの分析方法」(共・近藤泰弘)平成13年10月(『漢字文献情報処理研究』第2号)

○「古今集の「ことば」の型―言語表象とジェンダー」〈単〉平成14年3月(『ジェンダーの生成 古今集から鏡花まで』臨川書店)

○「歌ことばとジェンダー」「恋」を核とする語群の考察から―」〈単〉平成15年5月(『講座平安文学論究』第17輯 風間書房)

○「男と女の「ことば」の行方―ジェンダーから見た『源氏物語』の和歌―」〈単〉平成16年4月(『源氏研究』第9号 翰林書房)

○「古今風の継承と革新―初期定数歌論―」〈単〉平成16年

4月(『古今和歌集研究集成』第3巻 風間書房)

○「反古今的「ふるまい」の構築―會禰好忠「三百六十首歌」試論―」〈単〉平成17年7月(『文学』第6巻4号 岩波書店)

○「手習」考―斎宮女御・和泉式部から源氏物語へ―」〈単〉平成17年12月(『むらさき』(42) 紫式部学会)

○「紅梅の庭園史―手習巻「ねやのつま近き紅梅」の背景」

平成19年9月〈単〉(『源氏物語へ源氏物語から』笠間書院)

○「古今」歌人の「生と死」の歌」平成20年3月〈単〉(『国文学解釈と鑑賞』73-3 至文堂)

○「『惠慶百首』試論―N-gram分析によって見た「返し」の特徴と成立時期の推定」〈単〉平成20年1月(『古筆と和歌』笠間書院)

○「手習」巻の浮舟―「飽きにたる心地」と「飽かざりし匂ひ」をめぐる―」〈単〉平成20年12月(『源氏物語と和歌』青簡舎)

○「『源氏物語』とジェンダー―歌ことばが創造する「男」と「女」―」〈単〉平成21年3月(実践女子大学芸資

料研究所『年報』28号『源氏物語千年記念実践女子大学公開講演会』)『源氏物語』という文化」講演記録)

○「『拾遺和歌集』の成立―勅撰和歌集における王権・政権と和歌の問題として―」〈単〉平成21年12月(『平安文学史論考』武蔵野書院)

○「相模集所載「走湯権現奉納百首」試論―誰が「権現返歌百首」を詠じたか―」〈単〉平成22年2月〔『国文目白』第49号 後藤祥子名誉教授 学長退任記念号〕

○「寛弘期における聖徳太子伝受客の一樣相―流布本『相模集』天王寺題和歌を中心に―」〈単〉平成23年11月〔『国語と国文学 平安朝文学史の構想』88-11 ぎょうせい〕
○「古今和歌集男性特有表現一覧（改訂版）―N-gram分析による古典研究のこれまでとこれから―」〈単〉平成23年10月〔『実践国文学』80号〕

○「和歌表現とジェンダー」〈単〉平成24年5月〔『世界へひらく和歌 言語・共同体・ジェンダー』勉誠出版〕

○「『和泉式部日記』の「はじまり」をどう読むか―「薫る香に」の解釈と「女」の心が描く世界―」〈単〉平成25年10月〔『日記文学研究誌』（14） 日記文学研究会〕

○「『和泉式部日記』シンポジウム討論・質疑の部（シンポジウム記録）」平成25年10月〔『日記文学研究誌』（14） 日記文学研究会〕

○「「ことば」の秩序から見た女たち―序列化される女、攪乱する女―」〈単〉平成26年4月〔『源氏物語 煌めくことばの世界』翰林書房〕

○「コーパスを使った日本文学研究―N-gram 分析と「言語リソース」」〈単〉平成26年11月〔『日本語学』33-14

明治書院〕

○「河原院文化圏」再考」〈単〉平成31年5月〔『中古文学』103） 中古文学会〕

〈学界展望〉

○「王朝私家集の成立と展開―研究 現状と展望・付文献目録」（後藤祥子と共編）平成4年1月〔『王朝私家集の成立と展開』（風間書房 所収）

○「平成3年国語国文学界の展望 中古―私家集・歌人」〈単〉平成5年3月〔『文学・語学』137号（全国大学国語国文学会）

○「平成10年度国語国文学界の展望（特）中古―私家集・歌人」〈単〉平成11年9月〔『文学・語学』164号（全国大学国語国文学会）

○「『メディア時評』情報化時代の日本文学研究―21世紀にもとめられるもの」平成13年3月〔『文学』209-212 岩波書店〕

〈書評〉

○「書評 雋雪艶『藤原定家「文集百首」の比較文学的研究』」〈単〉平成15年〔『白居易研究年報』第4号 勉誠出版〕
○「書評 平野由紀子著『平安和歌研究』」〈単〉平成21年9

月(『国語と国文学』86-9 ぎょうせい)

〈コラム等〉

○コラム 和歌表現にみる創造性「男／女の Linguistic resources」としての『古今集』―「美」の規範という幻惑(『ジエンダーで学ぶ言語学』平成22年4月 世界思想社)

〈索引〉

○『平安和歌歌題索引』(共)昭和61年6月(罹麦会編)(B6判236頁) (平成6年増補版(B6判 311頁))

〈翻刻・解題〉

○『新編国歌大観』第七卷私家集編(企) 平成1年4月 谷山茂他編(角川書店)

「二条太皇太后宮大式」および「中宮上総」を担当(諸本調査・翻刻・解題を久保田淳と共同執筆)

〈辞典類等の項目執筆〉

○『和歌大辞典』昭和61年3月 犬養廉他編(明治書院)
中古の歌人・歌合について計6項目を執筆。

○『日本名歌集成』昭和63年11月(学燈社) 中古の歌人伝について計40項目を執筆。

○『国書人名辞典』全5巻 平成5年11月(平成11年6月市古貞次他編(岩波書店) 中古・中世の歌人について計350項目を執筆。

○『平安時代史事典』全3巻 平成6年3月 角田文衛監修(角川書店)「相模」1項目を執筆。

○『短歌名言辞典』平成9年10月 佐佐木幸綱編(東京書籍株式会社) 歌合判詞・家集序文・和歌説話から抜粋した名言について計6項目を執筆。

○『日本古典文学大事典』平成10年6月 大曾根章介・服部幸雄他編(明治書院)「和泉式部集」他、中古の家集・歌人伝について計15項目を執筆。

○『歌ことば歌枕大辞典』平成11年5月 久保田淳・馬場あき子編(角川書店)「物思ふ」他「思ふ」の複合語について計20項目を執筆。

○『日記文学事典』平成12年2月 石原昭平・三角洋一・森田兼吉・守屋省吾他編(勉誠出版)「相模集」1項目を執筆。

○『王朝語辞典』平成12年3月 秋山虔編(東京大学出版会)「琴」「琵琶」「笛」その他の語彙について計6項目を執筆。

〈科学研究費による研究歴〉
○平成3年度文部省科学研究費補助金 総合研究(A)(平

成3～5年度)「『本朝無題詩』の諸本の研究」(研究究代表者〓久保田淳・研究分担者〓西澤美仁、石川泰水、佐藤道生、村尾誠一、中川博夫、田仲洋己、加藤睦、渡部泰明、近藤みゆき、鈴木健一、落合博志、堀川貴司、佐々木孝浩)

《研究成果報告書》:『本朝無題詩』の諸本の研究」平成6年3月 平成5年度科学研究費補助金総合研究(A)研究成果報告書 A4判383頁、FD版に校訂本文データを収める。』

○平成9年度文部省科学研究費重点領域研究「人文科学」とコンピュータコンピュータ支援による人文科学研究の推進」(領域代表者・及川昭文)・データベース(応用)のうち 公募研究・平安時代和歌資料における特殊語彙抽出についての計量的研究と利用ツールの公開(研究代表者〓近藤みゆき)

《研究成果報告書》:『平安時代和歌資料における特殊語彙抽出についての計量的研究と利用ツールの公開』古今和歌六帖の歌語」(『科学研究費重点領域研究(A)人文科学とコンピュータ 1997年度研究成果報告書』(平成10年3月)

○平成10年度文部省科学研究費 特定領域研究(A)「人文科学」とコンピュータコンピュータ支援による人文科学

学研究の推進」(領域代表者・及川昭文)・データベース(応用)のうち 公募研究・平安時代和歌資料における特殊語彙抽出についての計量的研究と利用ツールの公開(研究代表者〓近藤みゆき)

《研究成果報告書》:『平安時代和歌資料における特殊語彙抽出についての計量的研究と利用ツールの公開』古今和歌集の歌語と表現のジェンダー性について」(『科学研究費特定領域研究 人文科学とコンピュータ コンピュータ支援による人文科学研究の推進』1999(平成11年3月)

○平成11年度文部省科学研究費 特定領域研究(A)「人文科学」とコンピュータコンピュータ支援による人文科学研究の推進」(領域代表者・及川昭文)・データベース(応用)のうち 公募研究・平安時代和歌資料における特殊語彙抽出についての計量的研究と利用ツールの公開(研究代表者〓近藤みゆき)

《研究成果報告書》:『プログラム統計処理を用いた文字列分析による和歌の分析』(『科学研究費特定領域研究 人文科学とコンピュータ コンピュータ支援による人文科学研究の推進』2000(平成12年3月)

○平成12年度文部省科学研究費 特定領域研究(A)「メディア教育利用」公募研究「言語/映像資料のコンピュー

タ利用とメディア教育」(研究代表者〓三宅晶子・研究分担者〓池田忍・近藤みゆき)

〈学会発表〉

- 「相模研究―母系・慶滋氏との関係をめぐって―」和歌文学会 昭和57年9月
- 「源道済の和歌における漢詩文受容」和歌文学会 昭和61年7月
- 「源道済の和歌―月・松風・山里の歌と漢詩文―」和歌文学会 昭和63年12月
- 「相模集」定頼・公資歌群の構成意識―その虚構性を中心に―」和歌文学会 平成4年7月
- 「平安時代和歌資料における特殊語彙抽出についての計量的研究と利用ツールの公開―『古今和歌六帖』の特殊語彙について―」重点領域研究「人文科学とコンピュータ」全体会議 平成9年6月
- 「平安時代和歌資料における特殊語彙抽出についての計量的研究と利用ツールの公開」特定領域研究「人文科学とコンピュータ」最終報告会 平成11年3月
- 「平安時代古典語古典文学研究のためのN-gramを用いた解析手法」言語処理学会第7回年次大会 平成13年3月

○「相模集所載『走湯権現奉納百首』試論―誰が権現返歌百首を詠じたか―」東京大学中世文学会 平成第314回例会 平成21年12月

〈講演会・シンポジウム〉

- 公開講演会「ジェンダーの生成」国文学研究資料館主催 (平成13年5月18日於国文学研究資料館)
講師・河添房江(東京学芸大学教授)、近藤みゆき、兼築伸行(早稲田大学教授)
- 平成十六年度 紫式部学会講演会「手習」考―斎宮女御・和泉式部から源氏物語へ― 紫式部学会(平成16年12月4日 於東京大学本郷キャンパス法文二号館三番大教室)
講師・秋山虔(東京大学名誉教授)、近藤みゆき、久保田淳(東京大学名誉教授)
- 源氏物語千年記念 実践女子大学公開講演会―『源氏物語』という文化 実践女子大学主催
第1回講演会担当「『源氏物語』とジェンダー―歌ことが創造する男と女―」(平成20年9月27日於東京ウイメンズプラザ)
- 講座歴史の歩き方第47回「黒髪のみだれも知らず」財団
講師・横井孝(実践女子大学教授)、近藤みゆき

法人JF東海生涯学習財団主催（平成21年6月5日於よみ
うりホール）

講師：近藤みゆき、水原紫苑（歌人）

○源氏物語アカデミー第24回テーマ「源氏物語と月」紫式
部顕彰会・源氏物語アカデミー委員会主催、共催（財）
越前市文化振興・施設管理事業団、後援：福井県 福井県
教育委員会 越前市 越前市教育委員会（平成21年10月23
～25日於パレス武生ホテル他）

講師：臈谷壽（同志社女子大学名誉教授）、後藤祥
子（日本女子大学名誉教授）、芳賀徹東京大学
名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教
授）、福嶋昭治（園田学園女子大学教授）、近藤
みゆき

○日記文学会第59回大会 公開シンポジウム『和泉式部日
記』（読み）の最先端（平成22年12月18日於國學院大學）
パネラー：金井利浩（中央大學附属高等学校教諭）、
近藤みゆき、武田早苗（相模女子大学教授）

〈インタビュー記事〉

○「百人一首 定家が描いた王朝浪漫」平成21年5月（『藝
術百家』第二十九篇 サンクチュアリ出版、フルカラー
12頁）

〈NHK教育テレビ出演〉

○NHK短歌ゲスト出演 平成20年12月28日

〈その他〉

○「八代集研究文献目録」昭和62年4月『国文学』（特集・
古今集から新古今集へ）（学燈社、篠原宏子・谷知子と
分担執筆）

○新日本古典文学大系『後拾遺和歌集』平成6年4月 久
保田淳・平田喜信共著（岩波書店）「作者名索引」（作
者の略伝を武田早苗と分担執筆。162項目を執筆。）

○「諸説整理 古今和歌集名歌解釈」（小町谷照彦編）平
成7年8月『国文学』（特集・古今和歌集―いま何が問
題か―）平成7年8月号（学燈社、小町谷照彦、久富木
原玲らと分担執筆）

○『国文学年鑑』（平成10年（1998）版）平成12年7
月 国文学研究資料館 国文学年鑑用データ作成の点
検・指導・助言。（国文学研究資料館 国文学研究情報
研究専門員）

○『和歌文学研究』第78号（平成11年6月）・79号（平成
11年12月）・80号（平成12年6月）各号掲載「会員新著
紹介」を分担執筆。（和歌文学会編集委員：齋藤彰、柏
木由夫、大久保廣行、久富木原玲、兼築信行、近藤みゆ

き、佐佐木幸綱、鈴木健一、林達也で分担執筆)

(作成 近藤泰弘・近藤絢音 令和2年8月1日)